



玉姫の間

麒麟の間

中庭

◎内 容
●見学者受付
●一般受付
●開会 热海市教育委員会あいさつ
●趣旨説明 静岡県教育委員会文化財保護課長
●伊伝財団理事長表彰
●シンポジウム 災害遺産に学ぶ
●報告
(1) 「伊豆東海岸の災害史」 金子 浩之(市史編さん担当主幹) (市史編さん担当主幹)

# 文化財を守る

第12回 シンポジウム

## 『記憶をつなぐ』

ー災害の歴史を知り、伝えるためにー

### ◎開催趣旨

静岡県伊豆半島の沿岸部は、過去に何度かの津波や高潮によって被害を受けており、その状況を伝える古文書や遺構などが近年多数発見されている。これらの災害史を紐解き、研究することは過去の災害に向き合い、未來の生活を守る盾となる。

静岡県文化財等救済ネットワークでは、「記憶をつなぐ」と題して第3回目のシンポジウムを開催する。郷土の災害を伝える文化遺産の事例を学習しながら、改めて「記録」が伝える災害の「記憶」を考える。

また、後半には静岡県文化財等救済ネットワークの会員の相互理解のため、意見交換やポスターセッションを実施する。

※起雲閣見学者希望者は、12時に受付に集合してください。  
入館料：410円(団体割引)

### ●参加申込方法(ハガキまたはメール)

住所、氏名、年齢、電話番号、起雲閣見学希望の有無を明記の上、下記宛にお送り下さい。

[宛先] 〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号  
静岡県教育委員会文化財保護課内 静岡県文化財保存協会  
「第12回 シンポジウム 文化財を守る」係まで  
[メールアドレス] E-mail:shizukabunka@gmail.com

### ●申込受付期間／9月16日(火)～10月23日(木)

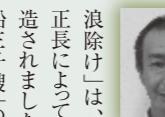
※定員になり次第締め切らせていただきます。

■お問合先:TEL.054-221-3159(静岡県文化財保存協会)まで。



■交通案内: JR熱海駅から徒歩20分 ◆JR熱海駅前新バスターミナル乗り場より ●湯~遊~バス「起雲閣前」下車すぐ ●①番乗り場: 梅園・相の原団地方面・清水町循環「起雲閣前」下車すぐ ●②番乗り場: 笹良ヶ台団地・西山・箱根方面「起雲閣前」下車すぐ ●③番乗り場: ひばりヶ丘・上の山・紅葉ヶ丘方面「天神町」下車 徒歩1分

◎会 員	80名	(事前申込制・参加無料 (参加の方には整理券をお送りします。))
【意見交換】	15時30分～16時15分	15時20分～16時15分
【問題提起】	15時20分～	15時20分～20分



町を守った武ヶ浜浪除け  
下田市教育委員会 増山順一郎



伊豆東海岸の災害史  
伊豆市教育委員会 金子浩之

ここ数年、『伊東市史』のなかで江戸時代の災害の歴史をたどりました。我々の先祖たちは、飢饉・台風・洪水・地震とさまざまな災害を乗り越えていました。その貴重な経験を今生きる私たちが引き継ぐことで、被害の軽減化に役立てる必要を感じています。現在、東大地震研究所の首都直下地震研究プロジェクトに参加して地震と津波の歴史を観る方法で、将来の地震津波とその被害を予測する研究の最前線を勉強しています。造船三千艘の賑わいをみせた港町下田の歴史正長によつて、町と湊を波浪から守るために築造されました。海上交通の要衝として出船入船三千艘の賑わいをみせた港町下田の歴史は、一方で災害の歴史でした。風水害の脅威だけでなく、三度襲つた地震津波は多くの町民の財産と生命を奪いました。今回は下田の町の災害と町民の備え、対応について紹介します。

災害遺産－保存から伝承へ－  
常葉大学 日比野秀男



三陸海岸大津波  
吉村昭のルボルタージュで三陸海岸の凄まじい津波の様子を記しています。また、昭和8年の大津波は多くの災害をもたらし、大津波記念碑が建てられました。碑文には「津波の時は海に行くな、ここまで逃げて来い、ここより下に家を建てるな」このような趣旨の言葉が刻まれています。これらの記念碑は「慰靈」「記録」「未来の防災」このよきな趣旨で建てられたのです。災害遺産を将来の防災に役立てている方策を紹介します。

## 一般財団法人 伊豆屋伝八文化振興財団

〒422-8067 静岡市駿河区南町6-16-301パレ・ルネッサンス3階 TEL.054-284-7559 FAX.054-284-7563 http://www.iden.or.jp



## 記憶をつなぐ

災害の歴史を知り、伝えるために

# 文化財を守る

第12回 シンポジウム(参加無料)